



# 令和8年 新春座談会

明けましておめでとうございます。  
新しい年の幕開けにあたり、小野田町長、荒井議長、赤坂教育長と4人の広報編集委員による令和8年新春座談会を開催しましたので、その様子をお届けします。



国府圭美 委員  
大場昭博 委員長  
荒井英世 議長  
小野田富康 町長  
赤坂文弘 教育長  
長谷川緩子 委員  
木村浩征 委員

**大場委員長** 令和6年の人口戦略会議の推計結果で、板倉町は消滅可能性自治体とされました。どのように受け止めていますか。



なるとされています。

**大場委員長** 消滅可能性自治体からの脱却と町の未来に向けての成長戦略について、どのようにお考えですか。また、子育て世帯や若い世代の移住促進施策についてどのような考えをお持ちですか。

**小野田町長** 10年前には入っていなかったのに、ショックでした。全国744の自治体が消滅可能性自治体とされ、群馬県でも35市町村中20市町村が消滅可能性自治体とされました。ただ、結果に一喜一憂するのではなく、これをどうやって食い止めるかどうやってまた元に戻すかというのにもトップとして考えなければいけないと思っています。

**荒井議長** 重く受け止めています。板倉町総合計画の人口ビジョンでも20代・30代の女性人口が令和2年には1,108人だったのに対し、令和32年に546人と半数以下に

**小野田町長** いかにも人の流出を減らして、流入を増やすかを考えなければなりません。大学進学を機に町を出て行って、出て行ったところで就職して帰ってこないというパターンが多くあります。このような状況で、町に帰ってきてもらう、出て行かないようにするためには、魅力がないといけないわけです。その魅力は何かと突き詰めていったときに、町で働いて子育てして、自立した生活がしっかりとできて、子どもたちに良い教育を与えられるといったビジョンを持つてもらうことが大事だと思っています。そのためにお金が掛かる投資も必要になりますが、しっかりとリターンがあるもの考えたときに、多くのジレンマが出てきます。何か新しい物

## 新年の抱負 小野田富康 町長



今年は午年で、私は馬術部に馬に乗っていましたので、馬というと親近感があります。馬には飛び跳ねるというようなイメージがありますので、板倉町がジャンプする、飛び跳ねるような年にしたいと思います。町長に就任して、約1年間責務を果たしてきました。昨年やってきたことを持続していくのと同時に、種をまいてきた部分は、水をあげて芽を出させていきます。確実に公約を実現していくために、まい進していく1年にしたいと思っています。

を作ると維持するためのランニングコストが掛かります。それを考えると町単独ではなく、近隣市町と連携し、広域で進めていくことが大事だと思っています。例えば、渡良瀬遊水地を囲む4市2町の関東どまんなかサミットでは公共施設の利用料を施設の所在する市町の住民と同一料金で利用ができます。多少遠くなってしまうので、使い勝手は悪いかもしれないですが、「全部の市町が全部同じものが必要か、作らなければいけないのか」という考え方もしていかなければいけないと思います。

住宅だと思っています。

また、移住者を増やすにしても、町内には子育て世帯向けの賃貸住宅が少ない現状があります。将来、町内に土地を購入し、家を建てていただくためにも、まずは賃貸で住んでもらって町の良さや利便性を知ってもらうのが良いと思っています。そこで、空き家対策も兼ねて、板倉ニュータウンの空き家を買上げるか、借り上げて、子育て世帯の移住を促進していく方法を考えています。まだまだ検討中の段階ですが、十分使える

**荒井議長** 子育て世代への支援強化、企業誘致、雇用の創出、さらには移住定住の促進だと思っています。そのためには、町長のお話にもありましたが、魅力を感じてもらう政策が必要になります。町には意外と地域資源・観光資源があると思います。SNSを活用することで、町内外への情報発信を強化すべきです。また、ターゲットとして若者や子育て世代に絞り、住宅支援や子育て支援、就業支援、就農支援といった4つの支援を充実させられれば良いのではないのでしょうか。

昨年11月、議会の視察研修で、山梨県北杜市に行ってきました。北杜市では、令和6年に公式ファンクラブ「ほくとファンクラブ」を発足しました。会員登録は必要となりましたが、イベントの開催など、さまざまな情報をホームページやSNSを活用して発信しています。この活動が移住定住につながっていると聞きました。町でもこのような事例を参考にやっていく必要があると思います。



**木村委員** 少子高齢化が加速する板倉町において、どのように対応していきますか。

**小野田町長** 町の高齢化率は37%で3人に1人が高齢者となっています。しかし、板倉町の介護保険料は県内では2番目に低く、元々高齢者が多いということになります。過剰に悲観する必要はない、元気な高齢者には引き続き頑張ってもらいたいと思っています。質の高い老後を送るための支援は他市町村に劣っていません。もし、他市町村がもっと良いことをやっているのであれば、取り入れるように指示をしています。また、町独自のものとすると、2人の職員が一人暮らしの高齢者宅に何う見守りサービスを行っています。ほかにも、福祉タクシー利用券を交付していますが、来年度は増額を考えて

高齢者への施策だけでなく、子どもたちへの施策についても他市町村に負けないようにやっています。代表的なのが給食費の無料化、英語検定料の半額助成や0歳児おむつ券といった誇れる施策を展開しています。同じ予算額であれば、1人に掛けられる金額は多くなります。子育てに関する予算は減らさず、子どもたちには手厚く支援する施策を続けていきたいと思っています。

**荒井議長** 確かに元気な高齢者が多くいますので、社会参加を促進していく必要があると思います。通いの場やシルバー人材センターでさまざまな活動をしていますので、さらに支援をしていければ良いと思います。一方、これから問題になってくるのは認知症の関係だと思います。町の地域包括支援センターでは認知症に関して、さまざまな活動をしていますが、その内容を知らないかたが多くいます。また、ボランティア活動をやりたいという人もいるなかで、具体的な情報を発信していく必要があると思います。

## 新年の抱負 赤坂文弘 教育長

学ぶ環境の充実を図っていきます。まず、昨年版倉中学校に校内教育支援センターを設置しました。生徒の居場所作りに活用されていますが、安心して学習できるようにさらに支援を充実させていきます。2つ目にAIドリルを導入し、児童生徒の学びに応じた難易度、進度で個別学習を進めてもらいます。3つ目に中学校部活動の地域展開について、部活動地域展開検討委員会を設置し、町の地域性を生かして進めていきます。4つ目に社会体育の拠点である海洋センターを改修して、町民の皆さまが利用しやすくしていきます。

学校と家庭、地域が一体となって進めていきたいと思っています。



**大場委員長** 板倉ニュータウングリーンブロックの新規分譲が開始されました。魅力と今後の展望について教えてください。

の令和7年度から21年度までの生徒数の減少が紹介されました。令和7年度と比較すると14年後には63%まで激減し、人数でいうと1,300人程度減少してしまうということです。このままでは、現在の高校数や学級数は維持できないとの説明がありました。そのため、県教育委員会では今後、「県立高校の再編整備を進めたい」と話していました。板倉高校の未来像ということですが、個人の考えですが、板倉高校はこれまで町の高校ということで、地域と深く結びついて、地域のかたに大切にされてきた経緯があります。地域コミュニティの活性化という点でも、ぜひ残したい高校であると考えています。仮に再編するとなっても、板倉町の生徒が進学する場合に、再編したことが不利にならない環境、安心して学べる進学環境という視点も大事にしたいと思っています。

**国府委員** 板倉ニュータウン産業用地は完売になっていますが、産業用地の新規造成についてはどのようにお考えですか。また企業誘致と町内の雇用創出についてお考えをお聞かせください。

**小野田町長** グリーンブロックは脱炭素、エネルギーの地産地消を売りにした住宅街区です。太陽光から発電して、その電力を使います。余った電力は蓄電し、夜間や悪天候などで太陽光発電ができない時に供給されます。また、水素を生成・貯蔵しておき、この水素から発電した電力を供給します。これは全国で初めての取り組みです。現在、100件以上の問い合わせをいただいている状況です。町としても9月に開催された東武ハイキングに合わせて、イベントを開催するなど、PRしてきましたが、引き続き販売に力を入れていきたいと考えています。今後、トレンドになって、全国が増えていく可能性もありますので、成功事例になるよう、県や企業局と協力して進めていきたいと思っています。



**小野田町長** 私の公約にもありました産業用地の新規造成は、町長就任当初から動いているところでありますが、板倉町の土地の多くは農業振興地域の整備に関する法律で農業振興地域とされています。新しく土地を造成して、産業用地にするにはかなりの手間と時間が掛かります。場所の選定、県との調整、用地買収、造成と最短期でも8年ほど掛かると見込んでいます。企業の進出意欲はとも感じていますが、今の状況であれば、企業を誘致できると考えています。いつまでもこの状況が続くとは限りませんが、産業用地の造成はしっかり考えているところですし、動かしいるところでもあります。雇用については、企業側からも働いてくれる人を求められています。板倉町に進出した場合、どれくらいの人が働

令和8年新春座談会はいかがでしたか。今、まちづくりで関心の高い内容について、小野田町長、荒井議長、赤坂教育長の3人へインタビューを行いました。

本年が町民の皆さまにとって良い年となりますようご祈念申し上げまして、結びとさせていただきます。

板倉町広報編集委員会一同

## 新年の抱負 荒井英世 議長

開かれた議会、信頼される議会を目指します。そのために、まず政策提言の強化。議員間討議を活性化するとともに、議会として各種団体と意見交換を行うことで、町執行部に提言していきます。次に、デジタル化の推進。議会ではタブレットを導入し、ペーパーレス化を進めています。ここからさらに、オンラインによる議会活動として、議会報告会や子ども議会など、町民の声を聞く手段を増やしていきたいと思っています。



**木村委員** 保育園と児童館の一体整備と保育園一園化の進捗状況はいかがですか。

**小野田町長** 令和10年度を目途に保育園と児童館を一体化することで進めています。保育園の一園化は、まず、4月に北保育園を廃園にし、板倉保育園に統合します。新しい園舎については、現在用地が確定し、これから測量と境界確認を行います。その後、用地買収や物件補償、設計などを行い、令和9年11月に建設がスタートします。令和10年10月に完成する予定です。4月には間に合いませんが、完成次第、園児たちには新しい園舎に移ってもらいます。建築費の高騰がありますので、当初見込んだ金額より大幅に増えるだろうと覚悟はしています。また、工期もかなり延びてしまうのではないかと心配しているんですが、このようなスケジュールで準備を進めています。

**木村委員** 町内には多くの公園がありますが、これからの管理・整備について教えてください。

**小野田町長** 町内には33か所の公園があり、町が直接管理しているのがふれあい公園、いずみの公園、中央公園、天神池公園、群馬の水郷の5か所です。そのうちの1か所を改修し、町の拠点となるような場所として、整備していきたいと考えています。他市町村にある良い公園、大きな公園を参考にしながら、魅力あるまち作りの一つになるような公園を作っていきたいと思っています。そのために、できることは、何でも取り入れていきます。また、群馬の水郷については、邑楽漁業協同組合に管理を委託しましたが、4月からは町の管理となります。職員を2人配置し、管理していきます。町の負担は増えますが、より良く利用してもらえよう、管理・整備をしていきます。

**荒井議長** 子どもたちのためにも整備していくのは良いと思います。特に中央公園は整備をする必要があると思います。他にも、群馬の水郷にある柳山やふれあい公園の水上ステージも整備してうまく活用できれば良いと思います。

**長谷川委員** 子どもが少なくなっているなかで、密な教育（質の向上）ができ、全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）で上位を狙うことも可能ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

**赤坂教育長** 全国学力・学習状況調査は全国統一のテストを実施して、児童生徒の学習状況を把握・分析し、各学校の今後の授業改善に生かしていくことが目的となっています。確かに、少人数できめ細かな指導は、可能になっていますが、目的が各学校の授業改善であること、少子化は板倉町だけではなく、多くの学校が同じ傾向であることを考えると、なかなか難しいと思います。しかし、学力向上対策については町教育委員会でも独自に重点化して取り組んでいるところです。令和5年



度から板倉町学力向上対策「学びのすすめ」として、児童生徒、保護者、教員に向けて統一した取り組みを行っています。児童生徒には「学習習慣、生活習慣の大切さ」を伝え、保護者には家庭学習の目安を示し、「家庭学習の充実」をお願いしています。教員には「トップランナー宣言」といって、授業改善の資料を配布して、「経験の浅い教員もベテランの教員も授業作りの方向を同じにしてよりよい授業にしていこう」と呼び掛けています。この取り組みは令和8年4年目になりますが、継続してきたことで成果が少しずつ表れてきていると思っています。

**長谷川委員** 令和7年10月に県立高校の在り方に関する情報交換会が開催されました。県教育委員会の方針を踏まえた板倉高校の未来像についてどのようにお考えですか。また、情報交換会の内容も教えてください。

**赤坂教育長** 県立高校が抱えている課題ということで、太田市、館林市、邑楽郡の高校